



楽しかった修学旅行 ～ 自主研修 ～

校長 飛松 正文

5月15日～16日まで、5・6年生の修学旅行の引率をしてきました。小学校一番の思い出になる修学旅行。子供たちはとても楽しみにしていましたし、とても楽しんでおりました。1日目は、熊本市に移動し、熊本城の見学と熊本城周辺の自主研修を行いました。

この自主研修は、各グループで見学したい施設を決め、自分たちでその施設を巡るという学習です。子供たちの自主研修を行っている姿を見ながら、現代の教育で求められている「学習者主体の授業」を思うことでした。学習者主体の授業（大隅学力向上リーフレット 令和6年度版より【大隅教育事務所】）と自主研修の様子を重ねて紹介いたします。

学習の過程	授業では	自主研修時の引率グループの会話
めあて	子供が自らが問いを発見する 「どうしてこうなるのかな。」 「それはどういうことかな。」	「博物館に行こう！と思うけれど、どうやって行けばいいかが分からない。」
見通し	子供が解決の方法を見通す 「何か使えそうな考えはないかな。」 「この方法でやってみたい。」	「旅行前にもらった地図を見ればいいんじゃない。」 「あの標識に博物館で書いてあるよ。」
学び合い まとめ	子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する 「できるまで挑戦するぞ。」 「あの友達に聞いてみよう。」	「この地図は、どの方向から見ればいいのか。」 「熊本城がここだからこっちから見たら分かりやすいよ。」 「あの標識に博物館で書いてあって、矢印があっち向きだよ。」
振り返り	子供が自らの学びを振り返り、次に生かす 「この方法がよかったな。」 「これがよくなかったから、次はこうしたらいい。」	「やっと着いた。地図と標識を見て行けば、博物館に行けたね。」 「この方法で、伝統工芸館にも行ってみよう。」

私は、このグループの引率でしたが、全くヒントを出さずに、「分からなかったら、その辺の人に聞けばいいよ。」とアドバイスしたのと、「あんなところに標識がある。」と標識に気付かせただけで、子供たちは自分たちで博物館と伝統工芸館に行くことができました。コツをつかんだおかげで、時間が余り、加藤清正像まで行くことができました。

大人が教えるのは簡単ですが、子供たち自身で課題解決をさせようと任せることで、子供たちが自ら学び・解決することができることを、この自主研修で実感しました。大人は、ほんの少しヒントを与えるだけ（ファシリテーター役）で十分なことも・・・。

学校以外の場で、このような体験をたくさん子供たちにさせることで、「学習者主体の授業」でも生かせる力を身に付けることもでき、ゆくゆくは生きていく力にもつながるのではないかと考えています。ぜひ、御家庭・地域でも、何かの機会に「子供たちに任せる・見守る・見届ける」体験をさせてみてはいかがでしょうか。お子様のよさを再発見できますよ。